

令和3年度水俣芦北地域農業再生協議会水田収益力強化ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

当該地域は、全耕地面積に占める主食用米面積の割合が約53%で、転作作物については、飼料用米や野菜等の作付面積が多く、土地利用型作物の担い手への集約が徐々に進んでいる。

しかしながら、主食用米の需要が減少する中で、他の作物の作付に転換を促進することで、水田面積の維持を図っていく必要がある。

また、農家の高齢化が進んでおり、農家戸数の減少が見られるとともに、不作付地の拡大が進んでいる。こうした中、水稻作付面積の維持が課題となっている。

2 高収益作物の導入や転作作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

当該地域において収益性の高い水田農業経営への転換を図るため、産地交付金を活用しながら、主食用米と比較し、面積当たりの所得が高い野菜等の高収益作物などの作付け拡大を図っているが、水田作に占める高収益作物の作付割合は低いものとなっている。

今後、水田をフル活用しながら、多様なニーズに対応した競争力のある農産物の計画的かつ安定的な生産・供給が可能な産地づくりを一層進め、収益性の高い水田農業経営への転換を図るため、地域内においては、高収益作物の導入などを推進する。

高収益作物の導入にあたっては、需要が増加している野菜の安定生産や、消費者のニーズに対応した多様な品目の作付、高品質で安定した生産による産地ブランド力の向上、地域に適応した品種の選定・普及及び栽培技術の改善、スマート農業等の省力・低コスト生産技術の導入、出荷期間・販売地域の拡大などの取組を通じて、特色ある産地づくりや、収益力の向上による経営の安定化を進める。

3 畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

地域の実情に応じた作物の本作化や、計画的な農地集積等の協議の中で関係機関・団体が連携して、水稻を組み入れない作付体系が定着している地域を把握し、各産地が必要な畑地化の取組を進めることができるよう畑地化に係る支援内容の情報提供や地域の対応方針について助言を行う。

4 作物ごとの取組方針等

地域内の約 1,300ha(不作付地を含む)の水田について、敵地適作を基本として、産地交付金を有効に活用しながら、作物生産の維持・拡大を図ることとする。

(1) 主食用米

主食用米は、農業者の経営安定の観点から、需要に応じた生産を確保する。前年の需要動向や集荷業者等の意向を勘案しつつ、米の生産を行う。

また、県産米については、食味ランキング等により高い品質水準にあることが証明され、現状では、供給量を超える需要があり、業務用向けには多収品種や「やまだわら」、食味での付加価値流通には、ヒノヒカリ・森のくまさん・くまさんの輝きと、流通形態に合わせた生産を行い、期待される品質(食味・外観・価格等)の維持・向上を図り、需要にきめ細かに対応することで生産を維持する。

(2) 非主食用米

ア 飼料用米

飼料用米を転作作物の中心作物に位置付け、産地交付金を活用し担い手への作付集約を行うとともに当該地域の主力な主食用米品種であるヒノヒカリと作期の重ならない多収品種ミズホチカラを推進し、生産面積の維持を図る。

また、飼料用米収穫後の稲わら利用の取組(耕畜連携)についても支援し、取組の定着を図る。

イ WCS用稲

畜産農家との連携を推進しながら、需要に見合った生産量を確保する。

(3) 麦、大豆、飼料作物

麦と大豆については、主に直売所等で加工・販売されていることから、今後も需要に応じた作付を推進する。

飼料作物については、畜産農家の自家利用中心の作付であるため今後も耕畜連携の推進とともに作付面積を維持する。

(4) そば、なたね

そばについては、地域の振興作物としてPRしていることから産地交付金を活用して、水田での栽培面積の維持・拡大を図る。

(5) 高収益作物

ア たまねぎ

たまねぎについては、地域の重点品目として位置付け、産地交付金を活用する。「貴錦」、「浜育」といった品種を中心に作付けを推進し、機械化体系の確立を図りながら、作付面積の拡大を目指す。

イ 花き

花きについては、主力品目であるストックを中心にホオズキなど様々な品種の栽培を推進し、病害虫等の発生を抑えるため、エコロジアル消毒の継続試験、生物農薬の導入試験等を行いながら、生産面積の拡大を目指す。

ウ その他地域振興作物

その他地域振興作物(たまねぎ・花きを除く)については、農業者の所得の最大化に向け、産地交付金を有効に活用しながら、特色ある産地づくりを推進する。

5 作物ごとの作付予定面積

作物	前年度 作付面積 (ha)	当年度の 作付予定面積 (ha)	令和4年度の 作付目標面積 (ha)	令和5年度の 作付目標面積 (ha)
主食用米	683.7 3,234 t	664 3,140 t	685 3,240 t	700 3,311 t
備蓄米	-	-	-	-
飼料用米	8	9	9	10
米粉用米	0.1	0.2	0.3	0.3
新市場開拓用米	-	-	-	-
WCS用稲	14.4	20	22	23
加工用米	-	-	-	-
麦	0.69	0.8	0.8	0.8
大豆	1.04	1.2	1.2	1.2
飼料作物	5.2	6	6	7
・子実用とうもろ こし	0	0	0	0
そば	2.4	2.5	2.5	2.5
なたね	0.4	0.5	0.5	0.5
高収益作物	19.3	21	22.5	24
野菜				
・たまねぎ	13.9	15	16	17
・花き・花木	5.4	6	6.5	7
・果樹	0	0	0	0
・その他の高収益 作物	-	-	-	-
畑地化	0	0	0	1

※ 主食用米の当年度、令和4年度、令和5年度の目標値において使用した単収は 473kg/10a

※ 令和2年7月豪雨による被災の影響を考慮して設定

6 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	用途名	目標	前年度（実績）	目標値
				令和2年度	令和5年度
1	たまねぎ	重点品目作付助成 （基幹）	作付面積	12.1ha	12.2ha
2	花き・花木	重点品目作付助成 （基幹）	作付面積	4.3ha	4.4ha
3	飼料用米、米粉用 米・飼料作物、WC S用稲	担い手加算（基幹）	作付面積	23.5ha	24ha
			飼料用米・米 粉用米 収量	341kg/10a	600kg/10a
			飼料作物 収量	3,427kg/10a	3,500kg/10a
			WCS用稲 収量	1,217kg/10a	1,490kg/10a
4	飼料用米【わら利用】 飼料作物、WCS用稲 【資源循環】	耕畜連携の取組（基幹） （わら利用・資源循環）	取組面積	10.3ha	10.8ha
			実施率	33.9%	42%
5	野菜（たまねぎ・花 きを除く）	地域振興作物への助成 （基幹）	作付面積	13.4ha	14ha
6	飼料用米、米粉用米	多収品種加算 （飼料用米・米粉用 米）	作付面積	7.9ha	8.2ha
			収量	339kg/10a	500kg/10a